

【表紙】

【提出書類】	訂正有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2024年6月26日提出
【発行者名】	三井住友D S アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猿田 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
【事務連絡者氏名】	竹本 政司
【電話番号】	03-6205-0265
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020 三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030 三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020 1兆5,000億円を上限とします。 三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030 1兆5,000億円を上限とします。 三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040 1兆5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2024年3月14日付をもって提出しました有価証券届出書(以下「原届出書」といいます。)について、2024年4月22日まで異議申立を受け付けた結果、「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2010」の信託を終了(繰上償還)することが決定されたことに伴う訂正、その他訂正すべき事項があるため、本訂正届出書により訂正を行うものです。

2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部_____は訂正部分を示し、<更新後>に記載している内容は原届出書が更新されます。

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

<訂正前>

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2010

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

以下、上記4ファンドを総称して「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。また、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2010」を「<2010>」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020」を「<2020>」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030」を「<2030>」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040」を「<2040>」という略称でいうことがあります。

<訂正後>

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

以下、上記3ファンドを総称して「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。また、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020」を「<2020>」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030」を「<2030>」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040」を「<2040>」という略称でいうことがあります。

(4)【発行（売出）価格】

<訂正前>

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「TY2010」、「TY2020」、「TY2030」、「TY2040」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

<訂正後>

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます(基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。)

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「TY2020」、「TY2030」、「TY2040」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)までとさせていただきます。

(7)【申込期間】

<訂正前>

2024年3月15日から2024年9月17日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

ただし、<2010>の取得の申込みは、2024年3月18日現在の受益者を対象として実施される繰上償還手続きにおいて、繰上償還が成立した場合、2024年6月26日までとなります。

(繰上償還手続きの実施について)

<2010>はターゲット・イヤーである2010年を越え、安定運用期間に入っていることから、運用を終了させてお預かりした資金をお返しし、有効活用の機会をもたらすことが確定拠出年金制度の加入者の皆さまにとって有利であると判断し、信託約款の規定に従い繰上償還する予定です。

この繰上償還に関してご異議のある受益者は、2024年3月18日から2024年4月22日まで委託会社に対し、異議申立をすることができます。

当該期間中の異議申立の受益権の合計口数が2024年3月18日現在の受益権総口数の2分の1を超えない場合、2024年6月28日をもって繰上償還を行います。

なお、2024年3月15日以降に、<2010>の取得申込みをされることにより取得された受益権については、異議を申し立てることができません。

<2010>の取得申込みの際には、上記の繰上償還手続きの内容をご理解のうえ、お申込みください。

<訂正後>

2024年3月15日から2024年9月17日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<更新後>

イ 当ファンドは、他の投資信託への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式および公社債に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。

ロ 各ファンドにつき定めるターゲット・イヤー 到達後は、流動性を重視した安定的な運用を行います。

各ファンドのターゲット・イヤーは次の通りです。

<2020>・・・西暦2020年

<2030>・・・西暦2030年

<2040>・・・西暦2040年

ハ 委託会社は、受託会社と合意の上、各ファンドとも金3,000億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。

ニ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

(イ) 当ファンドが該当する商品分類

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	内外	目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 (収益の源泉)	資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

(ロ) 当ファンドが該当する属性区分

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分変更型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載しています。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益は株式市場、債券市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年1回	目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	グローバル（日本を含む）	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

投資形態	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	目論見書または信託約款において、対円で為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対円で為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
		債券
	海外	不動産投信
追加型		その他資産 ()
	内外	資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル		
一般		(日本を含む)		
大型株	年2回	日本		
中小型株	年4回	北米		
債券	年6回(隔月)	欧州	ファミリーファンド	あり
一般	年12回(毎月)	アジア		
公債	日々	オセアニア		
社債	その他	中南米		
その他債券	()	アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ	なし
クレジット属性 ()				
不動産投信		中近東(中東)		
その他資産		エマージング		
(投資信託証券(資産複合(株式、債券)資産配分変更型))				
資産複合 ()				
資産配分固定型				
資産配分変更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分の「為替ヘッジ」は、対円で為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

(2) 【ファンドの沿革】

<更新後>

2001年3月13日	信託契約締結、設定、運用開始 (設定時の委託会社はさくら投信投資顧問株式会社)
2002年12月1日	三井住友アセットマネジメント株式会社が、合併によりファンドの委託会社としての業務を承継。「DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2010」、「DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020」、「DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030」、「DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2040」から「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2010」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030」、「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2040」に名称を変更。
2024年6月28日	「三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2010」の信託の終了(予定)

(3) 【ファンドの仕組み】

<更新後>

イ 当ファンドの関係法人とその役割

(イ) 委託会社 「三井住友D Sアセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書(目論見書)および運用報告書の作成等を行います。

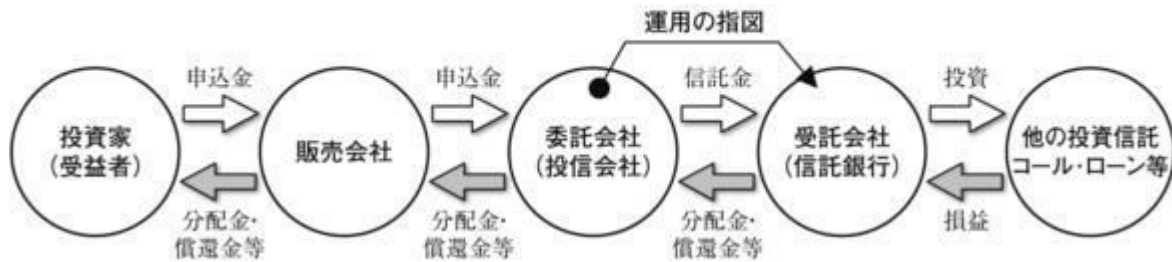
(ロ) 受託会社 「三井住友信託銀行株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

(ハ) 販売会社

委託会社との間で締結される販売契約(名称の如何を問いません。)に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書(目論見書)の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

運営の仕組み



□ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

20億円（2024年4月30日現在）

(ロ) 会社の沿革

- 1985年 7月15日 三生投資顧問株式会社設立
- 1987年 2月20日 証券投資顧問業の登録
- 1987年 6月10日 投資一任契約にかかる業務の認可
- 1999年 1月 1日 三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合
- 1999年 2月 5日 三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
- 2000年 1月27日 証券投資信託委託業の認可取得
- 2002年12月 1日 住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
- 2013年 4月 1日 トヨタアセットマネジメント株式会社と合併
- 2019年 4月 1日 大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に商号変更

(ハ) 大株主の状況

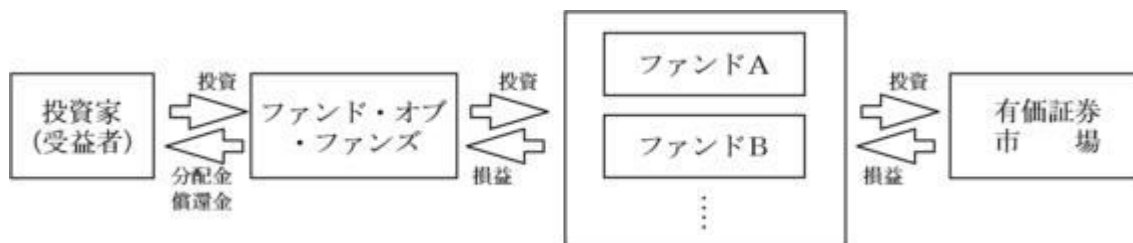
（2024年4月30日現在）

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	16,977,897	50.1
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	7,946,406	23.5
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	5,080,509	15.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	10.4
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	337,248	1.0

ハ ファンドの運用形態（ファンド・オブ・ファンズによる運用）

一般に、「ファンド・オブ・ファンズ」においては、株式や債券などの有価証券に直接投資するのではなく、複数の他の投資信託（ファンド）を組み入れることにより運用を行います（投資信託に投資する投資信託）。また、種々の特長を持った投資信託を購入することにより、効率的に資産配分を行います。

〔ファンド・オブ・ファンズによる運用〕



2【投資方針】

(1)【投資方針】

<更新後>

イ 基本方針

各ファンドのターゲット・イヤーに向けた信託財産の成長を目指して運用を行います。ターゲット・イヤー到達後は、流動性を重視した安定的な運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 投資信託への投資を通じて、国内株式・国内債券・外国株式・外国債券への分散投資を行います(グローバル・バランス型ファンド)。

(ロ) 投資資産配分(基本アロケーション)は、国内外の経済・金融市場動向見通し等の分析を基に、各資産クラスの期待収益率等を予測した結果、ターゲット・イヤーに向けた信託財産の成長に最適と考えられる比率とし、原則として1年(計算期間)毎に見直します。

各ファンドのターゲット・イヤーに近づくにつれ、安定資産等の比率を引き上げていきます。概ね、ターゲット・イヤーまでの期間が長いほど、リターン(収益)の高い運用を目指しますが、それに伴いリスク(損益の変動幅)が大きくなる傾向があります。

ターゲット・イヤー到達後の安定運用期間においても国内債券および短期金融資産の他、国内外の株式および外国債券への配分が予定されています。

(ハ) 期中の基本アロケーションとの乖離については、原則として四半期毎に見直し、必要に応じてリバランスを実施します。

ファンドの特色

1

他の投資信託への投資を通じて、国内株式・国内債券・外国株式・外国債券への分散投資を行います(グローバル・バランス型ファンド)。

2

各ファンドのターゲット・イヤーに向けた信託財産の成長を目指して運用を行います。ターゲット・イヤー到達後は、流動性を重視した安定的な運用を行います。

3

ファンド・オブ・ファンズという形態で運用されます。

□ 「ファンド・オブ・ファンズ」においては、株式や債券などの有価証券に直接投資するのではなく、複数の他の投資信託(ファンド)を組み入れることにより運用を行います(投資信託に投資する投資信託)。

種々の特徴を持った投資信託を購入することにより、効率的に資産配分を行います。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



各ファンドのターゲット・イヤー

<2020> …… 西暦2020年

<2030> …… 西暦2030年

<2040> …… 西暦2040年

■投資資産配分（基本アロケーション）は、国内外の経済・金融市場動向見通し等の分析を基に、各資産クラスの期待収益率等を予測した結果、ターゲット・イヤーに向けた信託財産の成長に最適と考えられる比率とし、原則として1年（計算期間）毎に見直します。

- 各ファンドのターゲット・イヤーに近づくにつれ、安定資産等の比率を引き上げていきます。概ね、ターゲット・イヤーまでの期間が長いほど、リターン（収益）の高い運用を目指しますが、それに伴いリスク（損益の変動幅）が大きくなる傾向があります。
- ターゲット・イヤー到達後の安定運用期間においても国内債券および短期金融資産の他、国内外の株式および外国債券への配分が予定されています。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

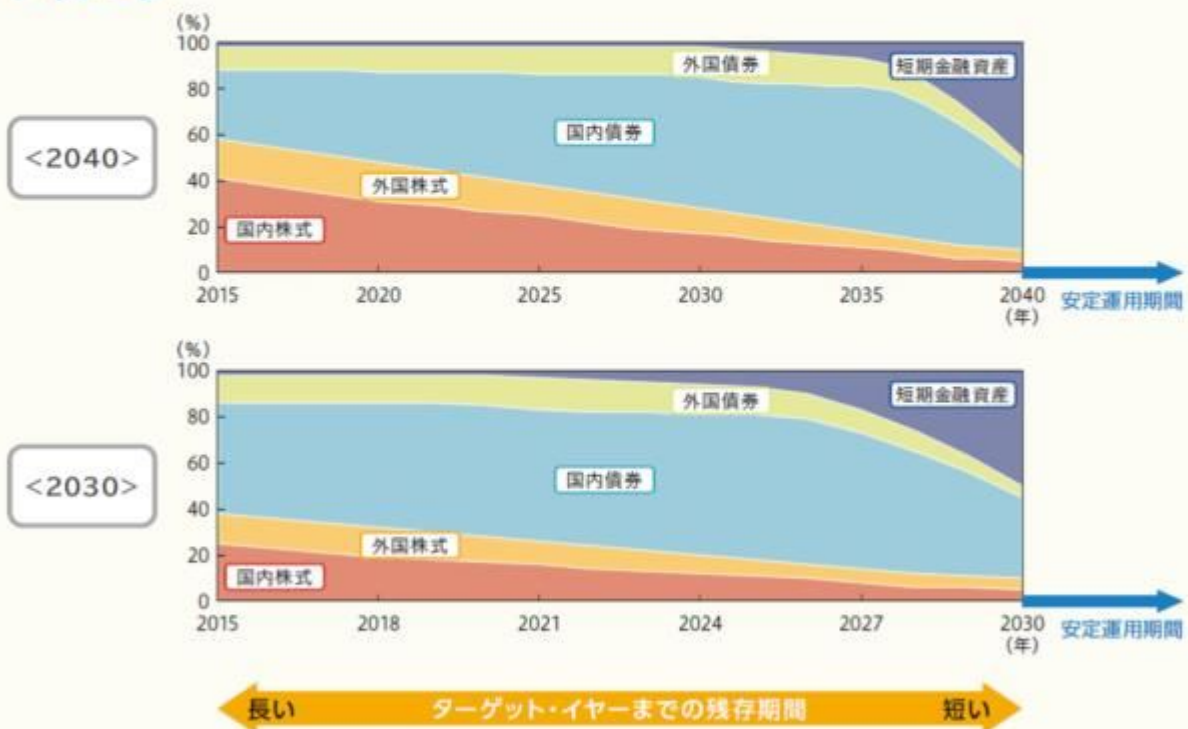
基本的な投資資産配分

▶基本アロケーション

■2023年12月末現在、各ファンドの基本アロケーションは以下の通りです。

	<2040>	<2030>	<2020> 安定運用期間
国内株式	27%	13%	5%
外国株式	15%	9%	5%
国内債券	45%	60%	35%
外国債券	11%	13%	5%
短期金融資産	2%	5%	50%

▶イメージ



※上記は、各決算時点での基本資産配分を表しています。また、現時点で予定している基本資産配分をもとに作成したイメージであり、将来、実際に上記の通りの運用を行うことを保証するものではありません。

<2020>

安定運用期間 ターゲット・イヤー到達(2020年12月決算時)

投資対象とする投資信託の投資方針等

▶ SMAM・国内株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)

- 主として日本の株式に投資し、TOPIX(東証株価指数、配当込み)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- TOPIX(東証株価指数)採用銘柄の中から、原則として投資不適格銘柄および低流動性銘柄を除外した上で、最適化法により、ポートフォリオを構築します。

▶ SMAM・年金国内債券パッシブファンド<適格機関投資家限定>

- 日本の公社債および短期金融資産を主要投資対象とし、NOMURA-BPI(総合)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- 層化抽出法により、ファンド規模に応じデュレーション、満期構成、セクター(債券種別)配分、事業債の格付け構成および業種を可能な限りNOMURA-BPI(総合)に近づけたポートフォリオを構築します。なお事業債の銘柄選択については、委託会社クレジットアナリストの調査結果に基づき、将来的に格下げによりベンチマークから外れる可能性が高い銘柄については、組入対象から除外することがあります。

▶ SMAM・外国株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)

- 主として日本を除く世界各国の株式に投資し、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- MSCIコクサイ・インデックス構成銘柄の中から、原則として投資不適格銘柄および低流動性銘柄を除外した上で、最適化法によりポートフォリオを構築します。

▶ SMAM・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>

- 主として日本を除く世界各国の債券に投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指した運用を行います。
- 層化抽出法により、通貨配分、国別配分、デュレーション、満期構成等を可能な限りベンチマークに近づけたポートフォリオを構築します。

▶ SMAM・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>

- 主として円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

※実際の運用は、各投資信託がそれぞれ投資対象とするマザーファンドで行います。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



最適化法とは

計量モデル等に基づいて、インデックスとの連動性を保てるようにインデックス構成銘柄の一部を抽出してポートフォリオを構築する方法です。

層化抽出法とは

指数を構成する銘柄をいくつかのグループ(層)に分け、それぞれのグループから代表銘柄を抽出してポートフォリオを構築する方法です。指数を構成するすべての銘柄を保有する完全法に比べて、少ない銘柄数でポートフォリオを構築することができるため、銘柄入れ替えに伴う取引コストの抑制や、低流動性銘柄の組入れを避けることができるというメリットがあり、債券パッシブ運用に適しています。

デュレーションとは

「債券の投資元本の回収に要する平均残存期間」や「金利の変動に対する債券価格の変動性」を表す指標です。一般的に、この値が長い(大きい)ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。



指数の著作権など

- ・TOPIX(東証株価指数)は株式会社JPX総研、NOMURA-BPIIは野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社、MSCIコクサイ・インデックスはMSCI Inc.、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCが、それぞれ公表している指数です。
- ・各インデックスに関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は、指数を公表および許諾する各社に帰属します。また、当該各社は当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。

3【投資リスク】

<更新後>

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。

当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

(イ) 株式市場リスク

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ロ) 債券市場リスク

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

(ハ) 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ニ) 為替変動リスク

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する(円高となる)場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

(ホ) カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

(ヘ) 流動性リスク

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

ロ その他の留意点

(イ) 投資信託に関する留意点

- ・ファンドのお申込みに関しては、クーリング・オフ制度の適用はありません。
 - ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
- これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

(ロ) 分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ハ 投資リスクの管理体制

委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、運用リスク管理を行っています。

リスク管理担当部は、信託約款等に定める各種投資制限やリスク指標のモニタリングを実施し、制限に対する抵触等があった場合には運用部門に対処要請等を行い、結果をリスク管理会議へ報告します。

また、ファンドのパフォーマンスの分析・評価を行い、結果を運用評価会議等へ報告することで、運用方針等との整合性を維持するよう適切に管理しています。

さらに、流動性リスク管理について規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングやストレステストを実施するとともに、緊急時対応策等の策定や有効性の検証等を行います。なお、当該流動性リスクの適切な管理の実施等について、定期的にはリスク管理会議へ報告します。

コンプライアンス担当部は、法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行い、結果をコンプライアンス会議に報告します。

（参考情報）投資リスクの定量的比較

〔 ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移 〕

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■ <2020>



〔 ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較 〕

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



■ <2030>



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

【 ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移 】

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

＜2040＞



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

【 ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較 】

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

<更新後>

純資産総額に年0.539%（税抜き0.49%）の率を乗じて得た金額が、毎日信託財産の費用として計

上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、各ファンドのターゲットイヤーに属する決算日の翌日以降年0.44%（税抜き0.4%）となります。

また、信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

信託報酬の配分は以下の通りです。

< 信託報酬の配分（税抜き）>

	委託会社	販売会社	受託会社
ターゲットイヤーの 決算日まで	年0.15%	年0.3%	年0.04%
ターゲットイヤーの 決算翌日以降	年0.06%		

上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。

支払先	役務の内容
委託会社	ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

投資対象とする投資信託の信託報酬を含めた総額は、各ファンドの基本アロケーション（2023年12月末現在）に従った場合、以下の通りとなります。なお、SMAM・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>は、信託報酬が変動するため、その上限額である年0.18%（税抜き）で計算しております。

< 2020 >	年0.5698%（税抜き0.518%）程度
< 2030 >	年0.60863%（税抜き0.5533%）程度
< 2040 >	年0.60962%（税抜き0.5542%）程度

（5）【課税上の取扱い】

< 更新後 >

イ 個別元本について

（イ）追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

（ロ）受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。

（ハ）受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の（収益分配金の課税について）を参照。）

ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

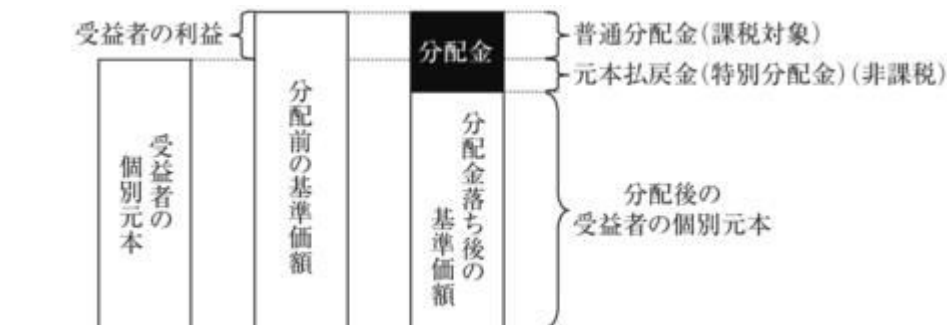
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記、の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%(所得税15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%(所得税15.315%および地方税5%)の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座(源泉徴収選択口座)の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等(上場株式、公募株式投資信託、上場投資信託(ETF)、上場不動産投資信託(REIT)、公募公社債投資信託および特定公社債をいいます。以下同じ。)の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得(申告分離課税を選択したものに限り、)および利子所得の金額との損益通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税のみ)の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

なお、当ファンドは、配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等に確認されることをお勧めいたします。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2024年1月現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

(参考情報) 総経費率

直近の運用報告書の対象期間(2022年12月21日～2023年12月20日)における当ファンドの総経費率(年率換算)は以下の通りです。

投資対象とする投資信託(以下、投資先ファンド)の費用は、その他費用に含めています。なお、当ファンドの費用と投資先ファンドの費用の対象期間は、異なる場合があります。

	総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
<2020>	0.48%	0.44%	0.04%
<2030>	0.62%	0.54%	0.08%
<2040>	0.63%	0.54%	0.09%

※上記は、対象期間の運用報告書に記載されている総経費率(原則として、購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税は含まれていません)です。

※投資先ファンドが上場投資信託(ETF)および上場不動産投資信託(REIT)に投資している場合、当該ETFおよびREITの管理費用等は含まれていません。

※計算方法等の詳細は、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。なお、新たな対象期間にかかる運用報告書が作成され、上記の総経費率が更新されている場合があります。

運用報告書は、委託会社のホームページ(<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>)から検索いただけます。

5【運用状況】

<更新後>

(1)【投資状況】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020

2023年12月29日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	895,298,996	99.05
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	8,621,139	0.95
合計(純資産総額)		903,920,135	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030

2023年12月29日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	2,048,678,514	98.89

現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	22,967,021	1.11
合計（純資産総額）		2,071,645,535	100.00

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

2023年12月29日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	3,502,483,373	98.92
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	38,199,653	1.08
合計（純資産総額）		3,540,683,026	100.00

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020

イ 主要投資銘柄

2023年12月29日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資信託受益証券	S M A M・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>	440,027,245	1.0040	441,787,353	1.0040	441,787,353	48.87
日本	投資信託受益証券	S M A M・年金国内債券パッシブファンド<適格機関投資家限定>	253,825,151	1.2431	315,530,046	1.2457	316,189,990	34.98
日本	投資信託受益証券	S M A M・国内株式パッシブ・ファンド（適格機関投資家専用）	17,043,484	2.6803	45,681,650	2.7164	46,296,919	5.12
日本	投資信託受益証券	S M A M・外国株式パッシブ・ファンド（適格機関投資家専用）	7,800,393	5.9294	46,251,651	5.8748	45,825,748	5.07
日本	投資信託受益証券	S M A M・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	21,123,983	2.1517	45,452,474	2.1397	45,198,986	5.00

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

□ 種類別投資比率

2023年12月29日現在

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	99.05
合計	99.05

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030

イ 主要投資銘柄

2023年12月29日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 （円）	帳簿価額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 （円）	投資 比率 （％）
日本	投資信託受益証券	S M A M ・ 年金 国内債券パッシ ブファンド<適 格機関投資家限 定>	992,581,022	1.2433	1,234,079,164	1.2457	1,236,458,179	59.68
日本	投資信託受益証券	S M A M ・ 国内 株式パッシブ・ ファンド（適格 機関投資家専 用）	102,094,285	2.6803	273,643,312	2.7164	277,328,915	13.39
日本	投資信託受益証券	S M A M ・ 年金 外国債券パッシ ブ・ファンド< 適格機関投資家 限定>	129,347,462	2.1517	278,316,934	2.1397	276,764,764	13.36
日本	投資信託受益証券	S M A M ・ 外国 株式パッシブ・ ファンド（適格 機関投資家専 用）	33,000,224	5.9294	195,671,528	5.8748	193,869,715	9.36
日本	投資信託受益証券	S M A M ・ マ ネーインカム ファンド<適格 機関投資家限 定>	64,000,938	1.0040	64,256,941	1.0040	64,256,941	3.10

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

□ 種類別投資比率

2023年12月29日現在

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	98.89
合計	98.89

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

イ 主要投資銘柄

2023年12月29日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資信託受益証券	S M A M ・年金国内債券パッシブファンド<適格機関投資家限定>	1,262,876,872	1.2432	1,570,062,045	1.2457	1,573,165,719	44.43
日本	投資信託受益証券	S M A M ・国内株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	355,352,635	2.6803	952,451,667	2.7164	965,279,897	27.26
日本	投資信託受益証券	S M A M ・外国株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	91,043,544	5.9294	539,833,589	5.8748	534,862,612	15.11
日本	投資信託受益証券	S M A M ・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	183,863,962	2.1517	395,620,087	2.1397	393,413,719	11.11
日本	投資信託受益証券	S M A M ・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>	35,618,951	1.0040	35,761,426	1.0040	35,761,426	1.01

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

□ 種類別投資比率

2023年12月29日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.92
合計	98.92

【投資不動産物件】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型) 2020

該当事項はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型) 2030

該当事項はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型) 2040

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020

該当事項はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030

該当事項はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第14期 (2014年12月22日)	1,042,332,411	1,042,332,411	14,223	14,223
第15期 (2015年12月21日)	1,219,971,427	1,219,971,427	14,395	14,395
第16期 (2016年12月20日)	1,350,077,224	1,350,077,224	14,620	14,620
第17期 (2017年12月20日)	1,407,255,564	1,407,255,564	15,080	15,080
第18期 (2018年12月20日)	1,344,375,344	1,344,375,344	14,809	14,809
第19期 (2019年12月20日)	1,307,220,727	1,307,220,727	15,214	15,214
第20期 (2020年12月21日)	1,170,229,281	1,170,229,281	15,337	15,337
第21期 (2021年12月20日)	1,085,482,183	1,085,482,183	15,615	15,615
第22期 (2022年12月20日)	1,002,277,271	1,002,277,271	15,298	15,298
第23期 (2023年12月20日)	904,963,382	904,963,382	15,685	15,685
2022年12月末日	995,318,316	-	15,190	-
2023年 1月末日	1,000,745,713	-	15,254	-
2月末日	1,002,965,022	-	15,314	-
3月末日	1,008,959,897	-	15,432	-
4月末日	1,001,300,740	-	15,443	-
5月末日	997,231,792	-	15,568	-
6月末日	1,000,506,060	-	15,735	-
7月末日	979,553,935	-	15,661	-
8月末日	973,241,626	-	15,622	-
9月末日	937,677,838	-	15,570	-
10月末日	905,245,457	-	15,423	-
11月末日	910,785,953	-	15,651	-
12月末日	903,920,135	-	15,693	-

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第14期 (2014年12月22日)	773,129,050	773,129,050	14,814	14,814
第15期 (2015年12月21日)	1,197,113,384	1,197,113,384	15,141	15,141
第16期 (2016年12月20日)	1,379,800,736	1,379,800,736	15,465	15,465
第17期 (2017年12月20日)	1,688,498,803	1,688,498,803	16,512	16,512
第18期 (2018年12月20日)	1,655,096,771	1,655,096,771	15,856	15,856
第19期 (2019年12月20日)	1,846,817,840	1,846,817,840	16,885	16,885
第20期 (2020年12月21日)	1,887,005,778	1,887,005,778	17,371	17,371
第21期 (2021年12月20日)	2,026,704,306	2,026,704,306	18,320	18,320
第22期 (2022年12月20日)	1,950,818,161	1,950,818,161	17,748	17,748
第23期 (2023年12月20日)	2,070,983,007	2,070,983,007	18,986	18,986
2022年12月末日	1,923,489,816	-	17,492	-
2023年 1月末日	1,949,502,055	-	17,689	-
2月末日	1,959,899,759	-	17,836	-
3月末日	1,993,709,975	-	18,085	-
4月末日	1,989,160,154	-	18,151	-
5月末日	2,027,581,020	-	18,509	-
6月末日	2,078,344,903	-	18,982	-
7月末日	2,069,833,917	-	18,819	-
8月末日	2,075,917,383	-	18,795	-
9月末日	2,050,831,241	-	18,698	-
10月末日	2,006,562,661	-	18,342	-
11月末日	2,064,623,429	-	18,921	-
12月末日	2,071,645,535	-	19,008	-

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第14期 (2014年12月22日)	588,648,311	588,648,311	15,256	15,256
第15期 (2015年12月21日)	1,837,523,740	1,837,523,740	15,742	15,742
第16期 (2016年12月20日)	2,076,188,532	2,076,188,532	16,160	16,160
第17期 (2017年12月20日)	2,421,821,587	2,421,821,587	17,845	17,845
第18期 (2018年12月20日)	2,468,219,622	2,468,219,622	16,732	16,732
第19期 (2019年12月20日)	2,887,381,981	2,887,381,981	18,299	18,299
第20期 (2020年12月21日)	3,010,869,342	3,010,869,342	19,072	19,072
第21期 (2021年12月20日)	3,273,621,251	3,273,621,251	20,811	20,811
第22期 (2022年12月20日)	3,132,543,494	3,132,543,494	20,342	20,342
第23期 (2023年12月20日)	3,529,504,665	3,529,504,665	22,729	22,729
2022年12月末日	3,089,562,908	-	20,044	-
2023年 1月末日	3,145,602,122	-	20,440	-

2月末日	3,174,570,309	-	20,640	-
3月末日	3,233,396,518	-	20,873	-
4月末日	3,243,799,390	-	21,069	-
5月末日	3,368,834,836	-	21,701	-
6月末日	3,493,739,884	-	22,502	-
7月末日	3,486,334,908	-	22,370	-
8月末日	3,476,336,308	-	22,418	-
9月末日	3,476,492,228	-	22,380	-
10月末日	3,376,451,236	-	21,801	-
11月末日	3,524,737,478	-	22,675	-
12月末日	3,540,683,026	-	22,783	-

【分配の推移】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第14期	2013年12月21日～2014年12月22日	0
第15期	2014年12月23日～2015年12月21日	0
第16期	2015年12月22日～2016年12月20日	0
第17期	2016年12月21日～2017年12月20日	0
第18期	2017年12月21日～2018年12月20日	0
第19期	2018年12月21日～2019年12月20日	0
第20期	2019年12月21日～2020年12月21日	0
第21期	2020年12月22日～2021年12月20日	0
第22期	2021年12月21日～2022年12月20日	0
第23期	2022年12月21日～2023年12月20日	0

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第14期	2013年12月21日～2014年12月22日	0
第15期	2014年12月23日～2015年12月21日	0
第16期	2015年12月22日～2016年12月20日	0
第17期	2016年12月21日～2017年12月20日	0
第18期	2017年12月21日～2018年12月20日	0
第19期	2018年12月21日～2019年12月20日	0
第20期	2019年12月21日～2020年12月21日	0
第21期	2020年12月22日～2021年12月20日	0
第22期	2021年12月21日～2022年12月20日	0
第23期	2022年12月21日～2023年12月20日	0

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2040

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第14期	2013年12月21日～2014年12月22日	0

第15期	2014年12月23日～2015年12月21日	0
第16期	2015年12月22日～2016年12月20日	0
第17期	2016年12月21日～2017年12月20日	0
第18期	2017年12月21日～2018年12月20日	0
第19期	2018年12月21日～2019年12月20日	0
第20期	2019年12月21日～2020年12月21日	0
第21期	2020年12月22日～2021年12月20日	0
第22期	2021年12月21日～2022年12月20日	0
第23期	2022年12月21日～2023年12月20日	0

【収益率の推移】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020

	収益率(%)
第14期	7.7
第15期	1.2
第16期	1.6
第17期	3.1
第18期	1.8
第19期	2.7
第20期	0.8
第21期	1.8
第22期	2.0
第23期	2.5

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030

	収益率(%)
第14期	10.2
第15期	2.2
第16期	2.1
第17期	6.8
第18期	4.0
第19期	6.5
第20期	2.9
第21期	5.5
第22期	3.1
第23期	7.0

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2040

	収益率(%)
第14期	12.7
第15期	3.2
第16期	2.7
第17期	10.4
第18期	6.2
第19期	9.4
第20期	4.2
第21期	9.1
第22期	2.3
第23期	11.7

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

(4) 【設定及び解約の実績】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型) 2020

	設定口数(口)	解約口数(口)
第14期	174,116,846	41,116,178
第15期	173,855,110	59,244,453
第16期	133,314,585	57,348,024
第17期	90,276,024	80,540,222
第18期	53,255,891	78,624,091
第19期	41,370,908	89,942,140
第20期	45,421,713	141,650,832
第21期	23,259,203	91,099,526
第22期	17,925,196	57,910,797
第23期	14,557,083	92,764,378

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型) 2030

	設定口数(口)	解約口数(口)
第14期	146,378,903	27,109,912
第15期	326,685,857	57,957,924
第16期	162,461,354	60,911,862
第17期	210,104,041	79,693,554
第18期	110,295,872	89,087,950
第19期	105,554,123	55,618,953
第20期	107,839,372	115,281,490
第21期	99,837,337	79,844,764
第22期	73,279,809	80,374,781
第23期	68,799,876	77,169,739

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040

	設定口数（口）	解約口数（口）
第14期	92,910,684	36,318,727
第15期	941,205,290	159,802,718
第16期	268,656,486	151,120,292
第17期	276,886,193	204,549,164
第18期	289,306,770	171,293,472
第19期	254,762,038	151,978,508
第20期	258,095,009	257,302,470
第21期	210,373,478	216,061,571
第22期	190,504,404	223,603,798
第23期	186,034,924	173,100,805

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

参考情報

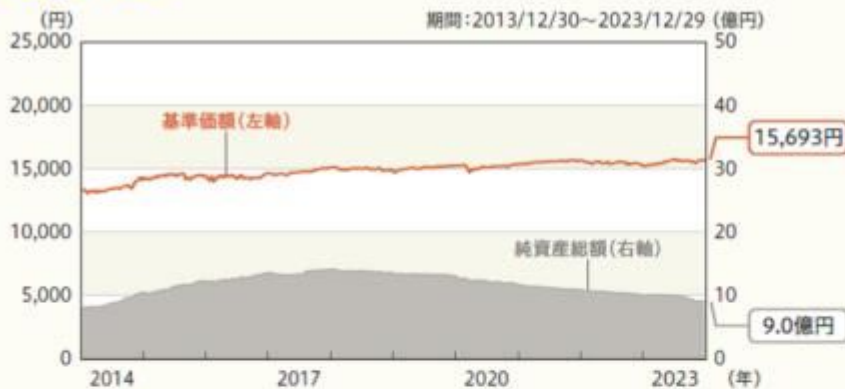
基準日:2023年12月29日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移

<2020>

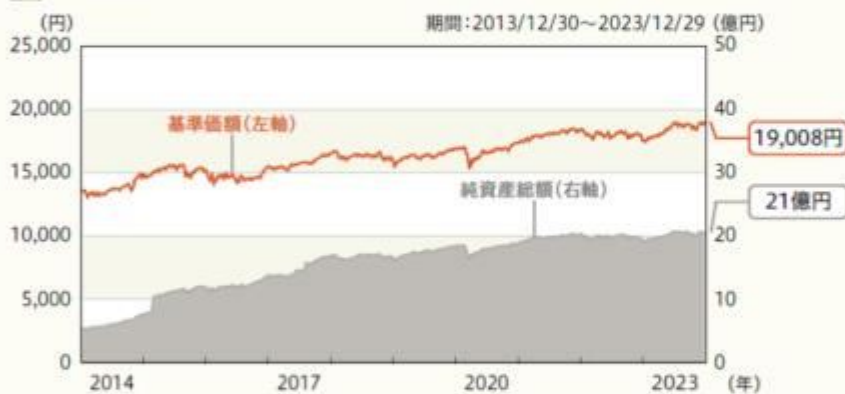


分配の推移

決算期	分配金
2023年12月	0円
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

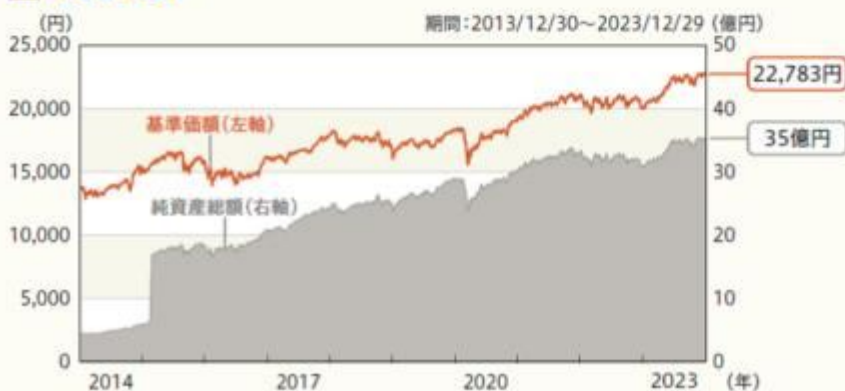
<2030>



決算期	分配金
2023年12月	0円
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

<2040>



決算期	分配金
2023年12月	0円
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

※基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

主要な資産の状況

■ <2020>

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	99.05
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.95
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託 受益証券	SMAM・マネーインカムファンド 〈適格機関投資家限定〉	48.87
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金国内債券パッシブファンド 〈適格機関投資家限定〉	34.98
日本	投資信託 受益証券	SMAM・国内株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	5.12
日本	投資信託 受益証券	SMAM・外国株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	5.07
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金外国債券パッシブ・ファンド 〈適格機関投資家限定〉	5.00

■ <2030>

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	98.89
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1.11
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金国内債券パッシブファンド 〈適格機関投資家限定〉	59.68
日本	投資信託 受益証券	SMAM・国内株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	13.39
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金外国債券パッシブ・ファンド 〈適格機関投資家限定〉	13.36
日本	投資信託 受益証券	SMAM・外国株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	9.36
日本	投資信託 受益証券	SMAM・マネーインカムファンド 〈適格機関投資家限定〉	3.10

■ <2040>

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	98.92
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1.08
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金国内債券パッシブファンド 〈適格機関投資家限定〉	44.43
日本	投資信託 受益証券	SMAM・国内株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	27.26
日本	投資信託 受益証券	SMAM・外国株式パッシブ・ファンド (適格機関投資家専用)	15.11
日本	投資信託 受益証券	SMAM・年金外国債券パッシブ・ファンド 〈適格機関投資家限定〉	11.11
日本	投資信託 受益証券	SMAM・マネーインカムファンド 〈適格機関投資家限定〉	1.01

※比率は、ファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

▶ 投資対象とする投資信託の現況

■ SMAM・国内株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)

当該投資信託が投資している「国内株式インデックス・マザーファンド(B号)」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	4.19
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	2.79
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.15
日本	株式	キーエンス	電気機器	1.83
日本	株式	信越化学工業	化学	1.58
日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	1.58
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	1.51
日本	株式	日立製作所	電気機器	1.45
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.42
日本	株式	三越商事	卸売業	1.39

※比率は、国内株式インデックス・マザーファンド(B号)の純資産総額に対する時価の比率です。

■ SMAM・年金国内債券パッシブファンド<適格機関投資家限定>

当該投資信託が投資している「国内債券(NOMURA-BPI)マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	国債証券	451 2年国債	0.005	2025/08/01	1.41
日本	国債証券	154 5年国債	0.100	2027/09/20	1.25
日本	国債証券	149 5年国債	0.005	2026/09/20	1.22
日本	国債証券	372 10年国債	0.800	2033/09/20	1.03
日本	国債証券	153 5年国債	0.005	2027/06/20	1.01
日本	国債証券	146 5年国債	0.100	2025/12/20	1.00
日本	国債証券	141 20年国債	1.700	2032/12/20	0.94
日本	国債証券	365 10年国債	0.100	2031/12/20	0.87
日本	国債証券	363 10年国債	0.100	2031/06/20	0.87
日本	国債証券	364 10年国債	0.100	2031/09/20	0.86

※比率は、国内債券(NOMURA-BPI)マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■SMAM・外国株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)

当該投資信託が投資している「外国株式インデックス・マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
アメリカ	株式	APPLE INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.21
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	4.56
アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス流通・小売り	2.45
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	2.11
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	1.43
アメリカ	株式	META PLATFORMS INC-CLASS A	メディア・娯楽	1.37
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	1.27
アメリカ	株式	TESLA INC	自動車・自動車部品	1.24
アメリカ	株式	BROADCOM INC	半導体・半導体製造装置	0.86
アメリカ	株式	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	0.85

※比率は、外国株式インデックス・マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■SMAM・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>

当該投資信託が投資している「外国債券パッシブ・マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.625	2026/05/15	0.90
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.250	2026/03/31	0.65
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	2.690	2026/08/12	0.59
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	0.625	2027/12/31	0.53
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	3.720	2051/04/12	0.52
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	3.020	2031/05/27	0.52
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	3.500	2033/02/15	0.49
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	2.400	2028/07/15	0.48
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	4.125	2032/11/15	0.47
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	2.180	2025/08/25	0.45

※比率は、外国債券パッシブ・マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■SMAM・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>

当該投資信託が投資している「マネーインカム・マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

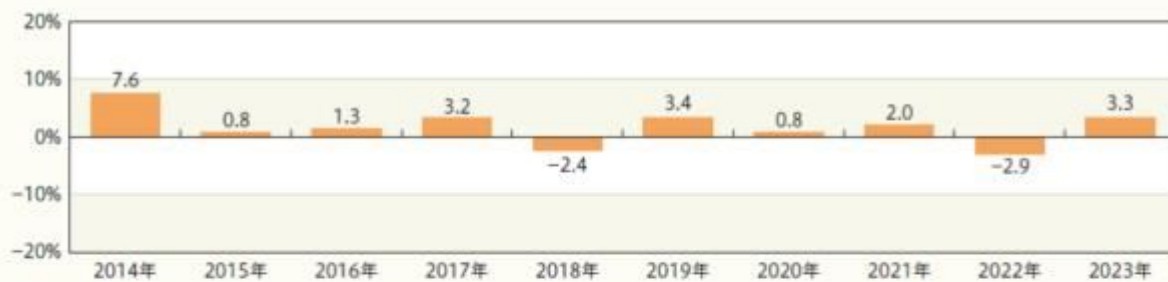
国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	特殊債券	29 政保日本政策	0.660	2024/02/20	14.77
日本	特殊債券	215 政保道路機構	0.669	2024/04/30	9.86
日本	特殊債券	23 政保政策投資C	0.645	2024/03/18	9.85
日本	特殊債券	56政保地方公共団	0.747	2024/01/19	9.84
日本	国債証券	337 10年国債	0.300	2024/12/20	7.40
日本	国債証券	335 10年国債	0.500	2024/09/20	5.93
日本	特殊債券	220 政保道路機構	0.644	2024/06/28	4.94
日本	特殊債券	218 政保道路機構	0.660	2024/05/31	4.94
日本	特殊債券	60政保地方公共団	0.660	2024/05/21	4.94

※比率は、マネーインカム・マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

年間収益率の推移(暦年ベース)

<2020>



<2030>



<2040>



※収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。分配実績がない場合は、基準価額の騰落率です。

※2023年の収益率は、年初から基準日までの騰落率です。

※ファンドにはベンチマークはありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

<更新後>

イ 申込方法

(イ) ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社に取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

販売会社によっては一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。お申込みの販売会社にお問い合わせください。

(ロ) 原則として午後3時*までに、取得申込みが行われ販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、お申込みの販売会社にご確認ください。

*2024年11月5日以降は、午後3時30分までに販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とする予定です。

また、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。

- (八) 当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

ファンドのお買付けに関しましては、クーリング・オフ制度の適用はありません。

- (二) 定時定額で取得申込みをする「定時定額購入サービス」（販売会社によっては、名称が異なる場合があります。）を利用する場合は、販売会社との間で「定時定額購入サービス」に関する契約を締結します。詳細については、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

ハ 申込手数料

ありません。

ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社にお問い合わせください。

ホ 照会先

手続き等のご不明な点についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2【換金（解約）手続等】

<更新後>

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。

お買付けの販売会社にお申し出ください。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時*までに、解約請求のお申込みが行われ販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、お申込みの販売会社にご確認ください。

*2024年11月5日以降は、午後3時30分までに販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とする予定です。

また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込みに制限を設ける場合があります。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかか

るファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

解約単位の詳細および一部解約価額につきましては、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

<更新後>

イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入れ有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。投資対象とする投資信託証券は、原則として、基準価額計算日に知りうる直近の純資産価格（基準価額）で評価します。また、上場されている場合は、その主たる取引所における最終相場で評価します。

なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとします。また、予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「TY2020」、「TY2030」、「TY2040」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

(3)【信託期間】

<更新後>

2001年3月13日から下記「(5)その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

第3【ファンドの経理状況】

<更新後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第23期（2022年12月21日から2023年12月20日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2020】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第22期 (2022年12月20日現在)	第23期 (2023年12月20日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	250,090	191,418
コール・ローン	6,200,077	11,010,000
投資信託受益証券	998,549,243	895,852,779
未収入金	1,120,000	2,880,000
流動資産合計	1,006,119,410	909,934,197
資産合計	1,006,119,410	909,934,197
負債の部		
流動負債		
未払金	120,000	-
未払解約金	1,435,280	2,864,771
未払受託者報酬	226,957	209,017
未払委託者報酬	2,042,927	1,881,404
その他未払費用	16,975	15,623
流動負債合計	3,842,139	4,970,815
負債合計	3,842,139	4,970,815
純資産の部		
元本等		
元本	655,178,910	576,971,615
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	347,098,361	327,991,767
(分配準備積立金)	152,536,555	135,704,986
元本等合計	1,002,277,271	904,963,382
純資産合計	1,002,277,271	904,963,382
負債純資産合計	1,006,119,410	909,934,197

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第22期 自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
営業収益		
受取利息	42	105
有価証券売買等損益	16,837,047	28,943,536
営業収益合計	16,837,005	28,943,641

	第22期		第23期	
	自	2021年12月21日	自	2022年12月21日
	至	2022年12月20日	至	2023年12月20日
営業費用				
支払利息		1,537		3,157
受託者報酬		460,706		428,801
委託者報酬		4,147,073		3,859,728
その他費用		34,459		32,108
営業費用合計		4,643,775		4,323,794
営業利益又は営業損失（ ）		21,480,780		24,619,847
経常利益又は経常損失（ ）		21,480,780		24,619,847
当期純利益又は当期純損失（ ）		21,480,780		24,619,847
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		996,512		2,553,007
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		390,317,672		347,098,361
剰余金増加額又は欠損金減少額		9,768,408		7,991,644
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		9,768,408		7,991,644
剰余金減少額又は欠損金増加額		32,503,451		49,165,078
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		32,503,451		49,165,078
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		347,098,361		327,991,767

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第23期	
	自	2022年12月21日
	至	2023年12月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

項目	第22期 (2022年12月20日現在)	第23期 (2023年12月20日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	655,178,910口	576,971,615口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.5298円 (1万口当たりの純資産額15,298円)	1口当たり純資産額 1.5685円 (1万口当たりの純資産額15,685円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	第22期 自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（266,543,101円）、および分配準備積立金（152,536,555円）より、分配対象収益は419,079,656円（1万口当たり6,396.42円）ですが、分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（4,439,297円）、収益調整金（237,789,561円）、および分配準備積立金（131,265,689円）より、分配対象収益は373,494,547円（1万口当たり6,473.36円）ですが、分配を行っておりません。

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項目	第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期 (2023年12月20日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第22期（自 2021年12月21日 至 2022年12月20日）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	17,222,860円
合計	17,222,860円

第23期(自 2022年12月21日 至 2023年12月20日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	23,055,071円
合計	23,055,071円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第22期 (2022年12月20日現在)	第23期 (2023年12月20日現在)
期首元本額	695,164,511円	655,178,910円
期中追加設定元本額	17,925,196円	14,557,083円
期中一部解約元本額	57,910,797円	92,764,378円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位:円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	S M A M・国内株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	17,043,484	45,681,650	
	S M A M・外国株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	7,827,648	46,413,256	
	S M A M・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	21,123,983	45,452,474	
	S M A M・年金国内債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	254,619,939	316,518,046	
	S M A M・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>	440,027,245	441,787,353	
	投資信託受益証券 小計			895,852,779
合 計			895,852,779	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2030】

（1）【貸借対照表】

	（単位：円）	
	第22期 （2022年12月20日現在）	第23期 （2023年12月20日現在）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	496,713	360,874
コール・ローン	12,314,188	20,756,852
投資信託受益証券	1,945,435,470	2,009,446,698
未収入金	6,300,000	46,170,000
流動資産合計	1,964,546,371	2,076,734,424
資産合計		
	1,964,546,371	2,076,734,424
負債の部		
流動負債		
未払金	7,000,000	-
未払解約金	1,301,908	159,135
未払受託者報酬	440,241	453,694
未払委託者報酬	4,953,068	5,104,597
その他未払費用	32,993	33,991
流動負債合計	13,728,210	5,751,417
負債合計		
	13,728,210	5,751,417
純資産の部		
元本等		
元本	1,099,191,787	1,090,821,924
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	851,626,374	980,161,083
（分配準備積立金）	357,719,185	407,060,144
元本等合計	1,950,818,161	2,070,983,007
純資産合計		
	1,950,818,161	2,070,983,007
負債純資産合計		
	1,964,546,371	2,076,734,424

（2）【損益及び剰余金計算書】

	（単位：円）	
	第22期 自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
営業収益		
受取利息	141	219
有価証券売買等損益	52,215,210	146,891,228
営業収益合計	52,215,069	146,891,447
営業費用		
支払利息	3,910	5,768
受託者報酬	877,967	887,804
委託者報酬	9,877,908	9,988,739
その他費用	65,878	66,740
営業費用合計	10,825,663	10,949,051
営業利益又は営業損失（ ）	63,040,732	135,942,396
経常利益又は経常損失（ ）	63,040,732	135,942,396
当期純利益又は当期純損失（ ）	63,040,732	135,942,396

	第22期	第23期
	自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	2,196,123	5,596,239
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	920,417,547	851,626,374
剰余金増加額又は欠損金減少額	58,848,440	58,104,429
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	58,848,440	58,104,429
剰余金減少額又は欠損金増加額	66,795,004	59,915,877
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	66,795,004	59,915,877
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	851,626,374	980,161,083

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第23期
	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第22期	第23期
	(2022年12月20日現在)	(2023年12月20日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,099,191,787口	1,090,821,924口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7748円 (1万口当たりの純資産額17,748円)	1口当たり純資産額 1.8986円 (1万口当たりの純資産額18,986円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第22期	第23期
	自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（742,054,243円）、および分配準備積立金（357,719,185円）より、分配対象収益は1,099,773,428円（1万口当たり10,005.29円）ですが、分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（73,632,878円）、収益調整金（757,971,995円）、および分配準備積立金（333,427,266円）より、分配対象収益は1,165,032,139円（1万口当たり10,680.31円）ですが、分配を行っておりません。

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	第23期
	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期 (2023年12月20日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第22期（自 2021年12月21日 至 2022年12月20日）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	53,980,956円
合計	53,980,956円

第23期（自 2022年12月21日 至 2023年12月20日）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	123,735,262円
合計	123,735,262円

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

項 目	第22期 (2022年12月20日現在)	第23期 (2023年12月20日現在)
期首元本額	1,106,286,759円	1,099,191,787円
期中追加設定元本額	73,279,809円	68,799,876円
期中一部解約元本額	80,374,781円	77,169,739円

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	S M A M ・ 国内株式パッシブ・ファンド（適格機関投資家専用）	102,094,285	273,643,312	
	S M A M ・ 外国株式パッシブ・ファンド（適格機関投資家専用）	33,116,059	196,358,360	
	S M A M ・ 年金外国債券パッシブ・ファンド＜適格機関投資家限定＞	130,863,467	281,578,921	
	S M A M ・ 年金国内債券パッシブ・ファンド＜適格機関投資家限定＞	960,565,654	1,194,079,164	
	S M A M ・ マネーインカムファンド＜適格機関投資家限定＞	63,532,810	63,786,941	
	投資信託受益証券 小計			2,009,446,698
合 計			2,009,446,698	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040】

（1）【貸借対照表】

	（単位：円）	
	第22期 （2022年12月20日現在）	第23期 （2023年12月20日現在）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	639,050	634,740
コール・ローン	15,842,906	36,509,091
投資信託受益証券	3,126,367,695	3,457,348,814
未収入金	10,000,000	45,230,000
流動資産合計	3,152,849,651	3,539,722,645
資産合計	3,152,849,651	3,539,722,645
負債の部		
流動負債		
未払金	6,000,000	-
未払解約金	5,573,063	762,732
未払受託者報酬	708,531	767,127
未払委託者報酬	7,971,412	8,630,600
その他未払費用	53,151	57,521
流動負債合計	20,306,157	10,217,980
負債合計	20,306,157	10,217,980
純資産の部		
元本等		
元本	1,539,915,161	1,552,849,280
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,592,628,333	1,976,655,385
（分配準備積立金）	579,953,726	805,021,856
元本等合計	3,132,543,494	3,529,504,665
純資産合計	3,132,543,494	3,529,504,665
負債純資産合計	3,152,849,651	3,539,722,645

（2）【損益及び剰余金計算書】

	（単位：円）	
	第22期 自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
営業収益		
受取利息	179	392
有価証券売買等損益	56,604,895	387,741,119
営業収益合計	56,604,716	387,741,511
営業費用		
支払利息	6,261	11,337
受託者報酬	1,416,376	1,473,181
委託者報酬	15,935,185	16,574,340
その他費用	106,494	111,127
営業費用合計	17,464,316	18,169,985
営業利益又は営業損失（ ）	74,069,032	369,571,526
経常利益又は経常損失（ ）	74,069,032	369,571,526
当期純利益又は当期純損失（ ）	74,069,032	369,571,526

	第22期	第23期
	自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	5,838,159	22,178,129
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	1,700,606,696	1,592,628,333
剰余金増加額又は欠損金減少額	201,670,058	216,598,333
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	201,670,058	216,598,333
剰余金減少額又は欠損金増加額	241,417,548	179,964,678
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	241,417,548	179,964,678
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,592,628,333	1,976,655,385

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第23期
	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第22期	第23期
	(2022年12月20日現在)	(2023年12月20日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,539,915,161口	1,552,849,280口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.0342円 (1万口当たりの純資産額20,342円)	1口当たり純資産額 2.2729円 (1万口当たりの純資産額22,729円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第22期	第23期
	自 2021年12月21日 至 2022年12月20日	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(1,389,503,733円)、および分配準備積立金(579,953,726円)より、分配対象収益は1,969,457,459円(1万口当たり12,789.39円)ですが、分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(286,377,395円)、収益調整金(1,467,354,567円)、および分配準備積立金(518,644,461円)より、分配対象収益は2,272,376,423円(1万口当たり14,633.59円)ですが、分配を行っておりません。

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	第23期
	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド(外部ファンド)を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期 (2023年12月20日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第22期(自2021年12月21日 至 2022年12月20日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	60,266,786円
合計	60,266,786円

第23期(自 2022年12月21日 至 2023年12月20日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	344,553,991円
合計	344,553,991円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第23期 自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第22期 (2022年12月20日現在)	第23期 (2023年12月20日現在)
期首元本額	1,573,014,555円	1,539,915,161円
期中追加設定元本額	190,504,404円	186,034,924円
期中一部解約元本額	223,603,798円	173,100,805円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	S M A M・国内株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	355,352,635	952,451,667	
	S M A M・外国株式パッシブ・ファンド(適格機関投資家専用)	91,043,544	539,833,589	
	S M A M・年金外国債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	183,863,962	395,620,087	
	S M A M・年金国内債券パッシブ・ファンド<適格機関投資家限定>	1,233,755,969	1,533,682,045	
	S M A M・マネーインカムファンド<適格機関投資家限定>	35,618,951	35,761,426	
	投資信託受益証券 小計			3,457,348,814
合 計			3,457,348,814	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020

2023年12月29日現在

資産総額	904,991,430円
負債総額	1,071,295円
純資産総額(-)	903,920,135円
発行済口数	575,988,708口
1口当たり純資産額(/)	1.5693円
(1万口当たり純資産額)	(15,693円)

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030

2023年12月29日現在

資産総額	2,073,072,015円
負債総額	1,426,480円
純資産総額(-)	2,071,645,535円
発行済口数	1,089,906,878口
1口当たり純資産額(/)	1.9008円
(1万口当たり純資産額)	(19,008円)

三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2040

2023年12月29日現在

資産総額	3,543,420,719円
負債総額	2,737,693円
純資産総額(-)	3,540,683,026円
発行済口数	1,554,121,997口
1口当たり純資産額(/)	2.2783円
(1万口当たり純資産額)	(22,783円)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<更新後>

イ 資本金の額および株式数

	2024年4月30日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

八 会社の機構

委託会社の取締役は8名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

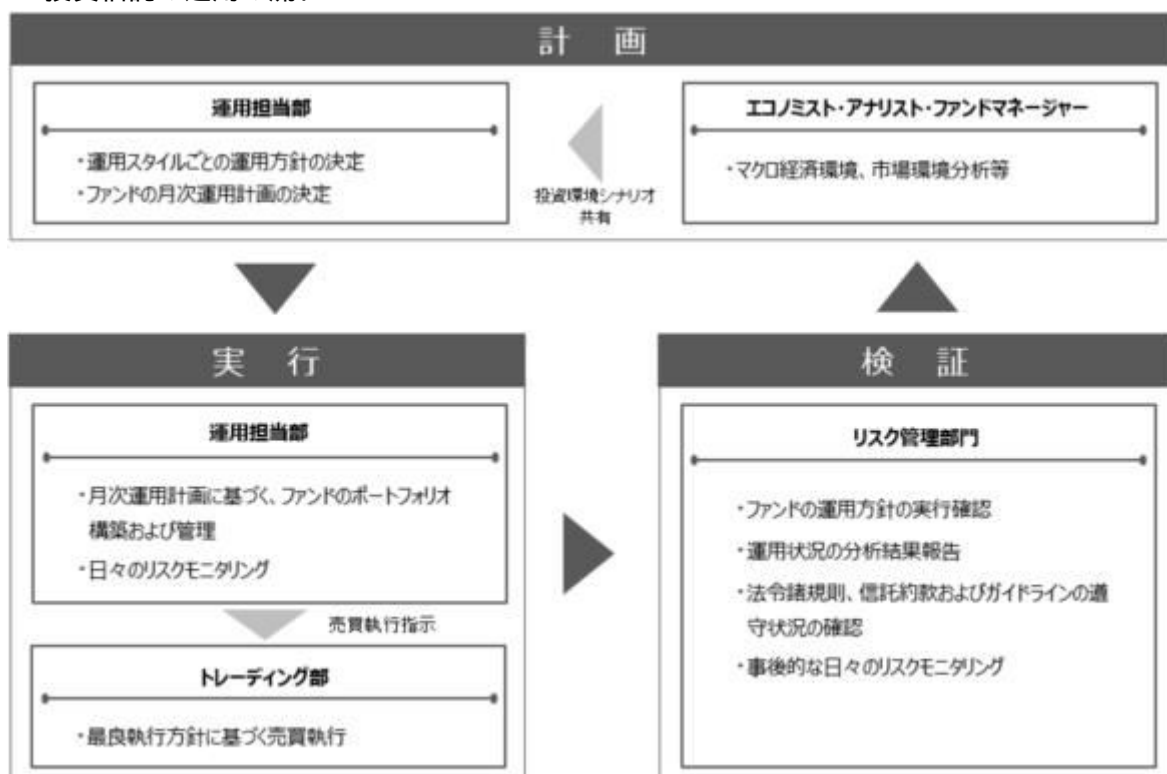
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名を選定することができます。

二 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2024年4月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託(親投資信託は除きます)は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	684	12,549,463
単位型株式投資信託	92	654,126
追加型公社債投資信託	1	24,895
単位型公社債投資信託	154	243,251
合計	931	13,471,736

独立監査人の監査報告書

2024年3月6日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020の2022年12月21日から2023年12月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2020の2023年12月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月20日をもって終了した前計算期間の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して2023年3月7日付けで無限定適正意見を表明している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書(訂正有価証券届出書を含む。)に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

2024年3月6日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030の2022年12月21日から2023年12月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DC年金プラン・ファンド(ターゲット・イヤー型)2030の2023年12月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月20日をもって終了した前計算期間の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して2023年3月7日付けで無限定適正意見を表明している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書(訂正有価証券届出書を含む。)に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

2024年3月6日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040の2022年12月21日から2023年12月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040の2023年12月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月20日をもって終了した前計算期間の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して2023年3月7日付けで無限定適正意見を表明している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。